

## 荷電粒子管理運営委員会

### 1997年度第1回議事録

日時： 1997年4月21日(月) 午後5時30分～

場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者： 加藤、岡部、千葉、片山、大西、平林

#### I. 報告

- 加藤：
- ・ 1996年度の報告書を作成した。
  - ・ 報告書の発送作業を来週に行う。

III. 次回運営委員会は、1997年6月27日(水)午後5時～

## 荷電粒子管理運営委員会

1997年度第2回議事録

日時： 1997年7月31日(木) 午後5時40分～8時

場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者： 加藤、千葉、大西、平林、吉田(アシスタント)

### I. 報告

- 加藤：
- ・ 7月18日、原研本部で開催されたシグマ委員会に出席し、1996年度のJCPRGの活動報告を行ってきた。この中で、「EXFORへの変換」についての質問がでた。
  - ・ 今年度の核データ研究会は、11月27日(木)、28日(金)原研で開催される予定。
  - ・ 文部省に96NRDF Annual Reportを持参し報告してきた。そのなかで、インターネットで、データを見ることができる点について詳しく説明をした。また、今までの10年間のJCPRGの活動は、データを蓄積してきたが、これからは、データの公開にむけて活動する時期にきたことを合わせて報告してきた。
- 千葉：
- トリエステの核データ国際会議に能登とともに参加してきた。
- ・ 国際会議には、47カ国424人の参加があり、口頭発表が228、ポスターセッションが、274あった。
  - ・ 昨年IAEAの手違いで訂正されなかったIAEA 96 meetingの議事録の訂正を今回の議事録に載せてもらう事となった。
  - ・ 次回の国際会議は、2001年に中国か原研で行なう予定。
- 大西：
- wwwでNRDFのデータを見る時に、Authorで検索出来るようにした。Authorを指定すると、Dナンバーが出てき、そのあとデータの中身を見ることができる。
- 吉田：
- コーディング者とチェック担当者、グラフィード担当者との打ち合せを行ない、以下の事を確認した。
- ・ コーディング者がグラフィードのために書いていた指示書は、コーディングしたfileをもとに作成したものを添付して、グラフィード担当者は、これを参考に作業をすることとする。
  - ・ 辞書にない言葉を使いたい時には、コーディング者が新たにコードを作成、使用し、その内容を管理運営委員会に報告する。
  - ・ コーディング者がグラフィードのために書いていた指示書は、コーディングしたfileをもとに作成したものを添付して、グラフィード担当者は、これを参考に作業をすることとする。

## II. 討論

### 1 新規コード作成について

コーディング者が作成、使用したコードは、辞書登録の際に必要な事項を記入のうえ、管理運営委員会に報告する事とする。管理運営委員会では、検討、判断、辞書の登録作業をすることとする。

### 2 データのNRDFへの登録作業について

登録作業は、管理運営委員会の責任のもと芦沢さんに作業をしてもらうこととする。

### 3 IntelligentPadへの移植について

準備ができしだい、移植作業を行なう。

III. 次回運営委員会は、1997年8月27日(水)午後5時～

## 荷電粒子管理運営委員会

1997年度第3回議事録

日時： 1997年8月27日(水) 午後6時～7時

場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者： 加藤、岡部、千葉、平林、吉田(アシスタント)

### I. 報告

- 吉田：
- ・新しいコード作成の申請の手続きをする様式を能登と相談のうえ作成した。
  - ・今年度のコーディング進行状況は、コーディング終了が3編で、論文收拾が12編である。今後、今年度の論文でたりない場合は、1985年以前にさかのぼることも考えている。
- 千葉：
- ・IntelligentPad へのデータ移植をすすめていたが、移植がうまくされていなかったため、今後修正をして進めていきたい。

II. 次回運営委員会は、1997年9月30日(火) 午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

## 1997年度第4回議事録

日時： 1997年10月7日(火) 午後6時～8時  
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室  
出席者： 加藤、岡部、能登、片山、千葉、大西、平林、吉田(アシスタント)

### I. 報告

- 加藤： ・ 科研費の申請(基盤研究B)をしたいと考えている。  
・ 北大工学部の知識メディアLABの研究費で、NRDFの作業を円滑に行うためのコンピュータ(デスクトップ1台、ノート型3台)を購入することとなった。
- 能登： ・ 9月の始めに1年の在外研究を終え帰国した。  
・ IAEAの会議に出席して辞書やコーディングについての議論ができた。今後もコンタクトをとって進めて行く予定である。また、EXFORへの変換作業も至急進める予定である。
- 千葉： ・ NRDFのワークステーションにUNISQLがインストールされWWW上で利用可能になった。
- 吉田： ・ 95年度、96年度のデータの登録作業に直ちに入る予定である。作業結果の報告を管理運営委員会にする。

### II. 討論

#### 1 IntelligentPad へのデータ移植について

移植のためのプログラムを作成し、自動化できる所を自動化して移植を完成させることを議論した。

#### 2 UNISQL を用いたデータの検索について

現在取り込んでいるEXFORのデータに最近のデータを付け加えてデータの公開にむけて、片山と大西とで公開テスト作業と議論を進めていくことを議論した。

### III. 次回運営委員会は、1997年10月28日(火)午後6時30分～

# 荷電粒子管理運営委員会

## 1997年度第5回議事録

日時： 1997年10月28日(火) 午後6時30分～8時  
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室  
出席者： 加藤、岡部、能登、片山、千葉、大西、平林、吉田(アシスタント)

### I. 報告

- 加藤： ・ 11月25日に北大工学部の知識メディアLABで、NRDFについて再度セミナーをすることとなった。
- ・ 来年のIAEAセンター長会議が1998年5月11～13日に行われることが決まり、加藤・千葉が出席することとする。
- ・ IAEAのO.SchwererからNRDFから送られてきたデータで、だぶっているものがあるとの連絡がきた。
- 能登： ・ NRDFエディターの手直しを考えている。
- 千葉： ・ IntelligentPadへのデータの移植作業のためのプログラムが完成した。
- 吉田： ・ 95年度のデータの登録作業が終了した。
- ・ 今までのデータを調べたところ重複しているものが見つかった。内容については、次回の運営委員会で報告をする。

### II. 討論

#### 1 IntelligentPadへのデータ移植について

平田氏に作業を依頼し、今年中に移植を終了してもらう。

#### 2 重複データについて

EXFORから連絡があったデータについては、運営委員会で検討し処理していくこととする。

#### 3 1997年度報告書の編集委員について

加藤、能登の2名が編集委員となった。

III. 次回運営委員会は、1997年11月28日(金)午後6時30分～

# 荷電粒子管理運営委員会

1997年度第6回議事録

日時： 1997年11月28日(火) 午後6時30分～8時

場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者： 加藤、岡部、能登、大西、平林、吉田(アシスタント)

## I. 報告

加藤： 11月25日に北大工学部の知識メディアLAB(VBL)で、NRDFについて再度セミナーをし、IntelligentPad との関係で今後進めたら良いと考えられる以下の3つの課題について話をした。

- 1 IntelligentPad を使った NRDF システムの作成。
- 2 IntelligentPad を使った EXFOR システムの作成。
- 3 Nucleosynthesis のデータベース作成。

VBLの方から、それらの課題を進める上で、VBLのポスドクのポストを使用することも可能であるという話があった。

能登： 前回議論となった重複データについて調べた結果、数値データについても検討していく必要を感じた。

吉田： 今までの取り扱ったデータで重複しているものを調べた。その結果、重複データがEXFORとNRDFの両方に登録されているもの、NRDFのみに登録されているもの、NRDFにも登録されていないものの3通りがあることがわかった。

## II. 討論

### 1 データの見直しと重複データについて

データを再度見直すことを進めていくなかで、重複データの問題も解決していく。

### 2 IntelligentPad を進めていくためのポスドクについて

候補者を具体的に考えていくこととする。

### 3 1997年度報告書について

次回の運営委員会で具体的に考える。

III. 次回運営委員会は、1997年12月24日(水)午後4時～

# 荷電粒子管理運営委員会

1997年度第7回議事録

日時： 1997年12月24日(水) 午後4時~5時30分

場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者： 加藤、岡部、能登、大西、平林、吉田(アシスタント)

## I. 報告

大西： 重複データをそれぞれ比較し検討したところ以下のことがわかった。

- 1 数値の違いについて数値の違いが起こる原因として、コピーをとる段階での問題が原因となっているものがある。
- 2 コーディングの違いについてデータを取るか取らないかの判断がコーディング者により違う事がある。

加藤： 12月18日に北大工学部の知識メディアLAB(VBL)でIntelligentPadの説明会があり、参加した。その時、IntelligentPadの体験版(CD)をもらってきた。

岡部： 作成された数値データのチェックを目的として数値データをグラフにあらわすプログラムを作成し、グラフにした。

吉田： NRDFのデータのIntelligentPadへの移植作業を1月より開始することとなった。

## II. 討論

### 1 重複データについて

重複しているデータの中身を検討し、より正確なデータを作成することとなった。この作業は、能登、片山、大西の3名で1月中に行う。

### 2 コーディングの謝金について

長年にわたり、謝金の金額が変わっていないこともあり、検討をすることとなった。

### 3 1997年度報告書について、以下の項目を入れることとし、執筆者に依頼する。

巻頭言	赤石氏
IntelligentPad	千葉
IAEA会議	能登、千葉
インターネットの時代におけるデータベースの公開	VBL
天体核反応におけるデータベースの必要性	平林
NRDF作成課程におけるコーディングチェックの役割	板垣氏
NRDF管理マニュアル	吉田

III. 次回運営委員会は、1998年1月27日(火)午後6時30分~

荷電粒子管理運営委員会  
1997年度第8回議事録

日時： 1998年2月17日(火) 午後6時30分～9時

場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者： 加藤、岡部、千葉、能登、片山、大西、平林、 布施(オブザーバー)、吉田(アシスタント)

I. 報告

- 加藤：
- 1 北大工学部の知識メディア LAB (VBL) のポスドクのポストを NRDF で2つ使用希望を出せることとなった。ポスドクの仕事は、IntelligentPad を用いた NRDF のシステムの完成を目的としたものである。
  - 2 VBL でも外国人招へいや外国出張の制度も利用可能である。
  - 3 3/9-11 の VBL 研究会に出席し、加藤、千葉が話をする予定。
  - 4 IAEA センター長会議が5/11-15 ウィーンの IAEA 本部で開催される。

千葉： IntelligentPad に NRDF 辞書データをメンテナンスする Pad を試作中である。

II. 討論

1 コーディング作業について(重複データの検討時に発見した問題点について)

- ・ 重複している2つのデータを比べると収集データテーブル数に違いがあるものがある。その原因と考えられる点は、以下のとおりである。
  - 1 核反応の excitation Data をデータとしてとっているかどうかによる。
  - 2 Table のまとめかたが違うために数が違うことが考えられる。
  - 3 optical potential の Data をとっているかないかによる。
- ・ コーディング作業を行うときの検討事項
  - 1 EXP セクションを書く時、まとめられるものはまとめる。
  - 2 PHQS を入れるかどうかをきめる。
  - 3 必ず入れる項目についての統一性がない。
  - 4 どのようなデータをとるかをコーディング者に確認をする必要がある。
  - 5 取り方によってテーブルの数が違う問題について検討する。
  - 6 ケアレスミスをどのようにチェックしてなくすか。

III. 次回運営委員会は、1998年3月24日(火) 午後6時0分～

## 荷電粒子管理運営委員会

1997年度第9回議事録

日時： 1998年3月24日(木) 午後5時40分～

場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者： 加藤、能登

運営委員があまり集まらなかったため、正式な運営委員会のかたちはとれなかったが次のような議論をした。

- 1 97年度報告書について
- 2 IAEAのセンター長会議の出席について
  - \* 旅費について
  - \* EXFORへの変換データについて

III. 次回運営委員会は、1997年6月27日(水)午後5時～